

■伊東忠太 建築史学者として古建築の保存・研究の道を開く一方、建築家としてユニークな社寺建築を設計した。

いとうちゆうた

大政奉還・・・1867＝ 出羽国米沢で、藩士の蘭方医の家系の次男に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 1歳：

初の日刊新聞1870＝ 3歳：すでに上京していた両親のもとに移る。

明治6年政変 1873＝ 6歳：

三つの反乱・1876＝ 9歳：

琉球処分・・・1879＝12歳：佐倉に移るが、

明治14年政変1881＝14歳：東京に戻って、

外国語学校ドイツ語科に入学。

秩父事件・・・1884＝17歳：「美人画」制作、以後も、生涯にわたって休むことなく絵を描き続ける。

内閣発足・・・1885＝18歳：第一高等中学校予備科に編入、

画家になりたかったが、

帝国憲法発布1889＝22歳：東京帝国大学工科大学造家学科に入学。

卒業論文「建築哲学」・卒業設計「Design for a Cathedral」をまとめて、

大本教・・・1892＝25歳：卒業すると、大学院に進み、

郡司千島探検1893＝26歳：東京美術学校講師に任命され、平安遷都記念殿技師になる。

日清戦争始・・・1894＝27歳：*「アーキテクチャールの本義を論じて其の訳字を撰定し我が造家学会の改名を望む」を発表し、

日清戦争終・・・1895＝28歳：設計の「平安神宮」竣工。

白馬会・・・1896＝29歳：古社寺保存会委員となり、古建築の保存と研究のみちを開き、

八幡製鉄始・・・1897＝30歳：工科大学講師、造家学会を建築学会と改称させ、

子規句歌革新1898＝31歳：設計の「豊国廟」竣工。博士論文「法隆寺建築論」を発表して、日本建築史研究の端緒をつけ、

Bushidou・・・1899＝32歳：助教授、

ピアノ国産化・・・1900＝33歳：パリ万国博覧会のための「稿本日本帝国美術略史」編集で建築を担当し、日本初の建築通史をまとめ、

田中正造直訴1901＝34歳：設計の「台湾神宮」「大宰府文書館」竣工。*工学博士、大学院課程で学位取得した初の建築学者になった。

教科書疑獄・・・1902＝35歳：中国・ビルマ・インド・エジプト・トルコ・欧米の歴遊に出、

日比谷公園・・・1903＝36歳：設計の「伊勢神宮司庁」竣工。

この間、中国山西省で雲岡石窟を調査して世界に紹介、

日露戦争終・・・1905＝38歳：帰国するとともに、東京帝国大学工科大学教授。

初期の研究では岡倉天心の影響を受けて、日本建築史の体系化と東洋と比較した日本建築の特質の抽出に関心をもち、東洋建築史を体系化。

西域探検が縁で、大谷光瑞に気に入られ、「西本願寺大連別院」「西本願寺鎮西別院」を計画。

明治天皇没・・・1912＝45歳：

大正期以降主要な活動は建築設計に移り、

第一次大戦始1914＝47歳：*自ら最も気に入っていた「不忍弁天堂天龍門」竣工。

民本主義・・・1916＝49歳：風刺漫画・戯画帳ともいべき「阿修羅帖」を出版。

大暴落・・・1920＝53歳：千眼寺仁王門設計。設計の「明治神宮」竣工。

原敬首相暗殺1921＝54歳：

関東大震災・・・1923＝55歳：久米民之助箱根別邸五角堂設計。

護憲三派圧勝1924＝56歳：沖繩を旅行、政府に沖繩の建造物調査を具申、これを契機に多くが文化財指定となる。

治安維持法・・・1925＝58歳：帝国学士院会員。「朝鮮神宮」など主要な創建神社の多くを手がけた。

金融恐慌・・・1927＝60歳：設計の「大倉集古館」竣工。

共産党事件・・・1928＝61歳：東京帝国大学を定年退官し、早稲田大学教授。

海軍軍縮条約1930＝63歳：設計の「震災記念堂」竣工。

満州事変・・・1931＝64歳：

国際連盟脱退1933＝66歳：設計の「靖国神社神門」竣工。

帝人疑獄事件1934＝67歳：「築地西本願寺本堂」などで、日本および東洋建築の細部を用いながら西欧的な手法により立体として再構成し、新しい日本建築を生み出すことに意を用いた。

二二六事件・・・1936＝69歳：翌年につけて「伊東忠太建築文献」(全六巻)刊行。

日中戦争始・・・1937＝70歳：帝国芸術院会員。

第二次大戦始1939＝72歳：文部省に設置された法隆寺壁画保存委員会の委員長。日独文化交流教授として渡独。

日米開戦・・・1941＝74歳：「伊東忠太建築作品」出版される。芭蕉を生誕300年を記念して伊賀上野に建設された「俳聖殿」(のち重要文化財となる)を最後に退き、

創価学会検挙1943＝76歳：*建築界初の文化勲章を受けて、

年金+総武装 1944＝77歳：4年かけた「支那建築装飾」(全五巻)完結。

敗戦・・・1945＝78歳：弟子の岸田日出刀により「建築学者伊東忠太」刊行。

極東裁判決・・・1948＝81歳：

自衛隊発足・・・1954＝87歳：_没した。

鈴木博之「伊東忠太を知っていますか」、『没年日本史人物事典』、平凡社百科事典、